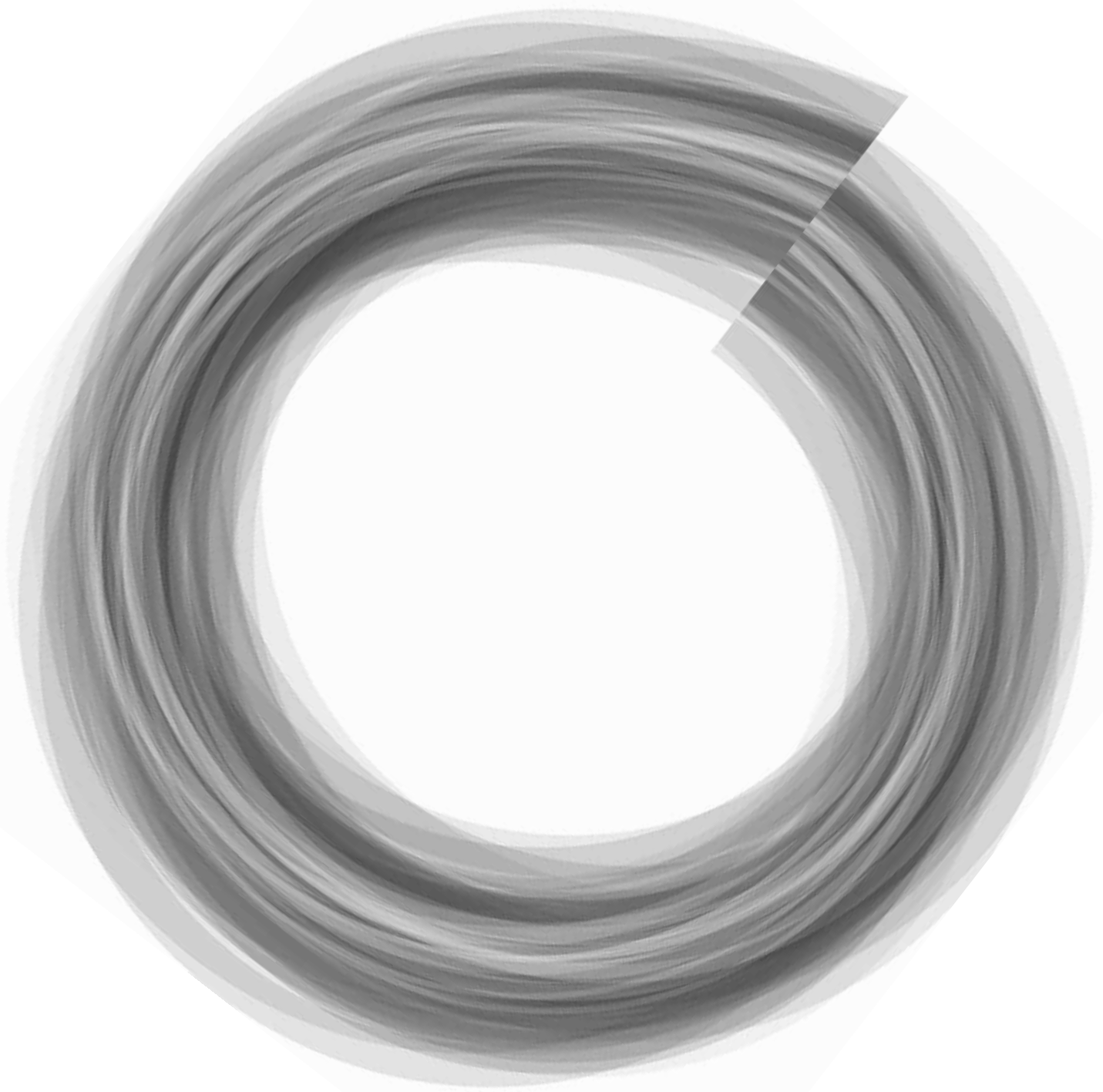


千葉大学教育学部研究紀要

Bulletin of The Faculty of Education, Chiba University Vol.71

ISSN1348-2084

第 71 卷



2023年3月
千葉大学教育学部

「千葉大学教育学部研究紀要」編集・発行要領

- 第1 この要領は、「千葉大学教育学部研究紀要」（以下「紀要」という。）の投稿及び編集・発行に関し必要な事項を定めたものである。
- 第2 紀要は、少なくとも各年度1回発行する。
- 第3 投稿資格者は、教育学部の教授、准教授、講師、助教、特任教員、非常勤講師（当該年度）、本学部附属学校副校長、教諭、栄養教諭及び養護教諭、日本学術振興会特別研究員（当該年度）とする。ただし、非常勤講師（当該年度）、本学部附属学校副校長、教諭、栄養教諭及び養護教諭、日本学術振興会特別研究員（当該年度）が投稿を希望する場合は、本学部の教授、准教授、講師、助教のいずれか1名の推薦を付することを条件とする。なお、共同研究者に関しては前記に限らないものとする。
- 第4 投稿する論文は、次のとおりとする。
- 一 未公開のものに限る。
 - 二 投稿者1人につき1編、刷上り10頁以内とする。ただし、投稿者が経費を研究費等により負担する場合はこの限りではない。
- 第5 原稿の作成については、別に定める「紀要」投稿細則による。
- 第6 校正、修正及び編集等は、次による。
- 一 提出した原稿は、原則として変更を加えることが出来ない。
 - 二 活字、体裁等は、教育学部研究紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）が指定する。
 - 三 編集委員会が修正の必要を認めた場合は、投稿者と協議する。
 - 四 原稿の掲載順序は、分野ごとの原稿受付順とする。ただし、同一分野内に縦書き原稿と横書き原稿が混在する場合は、それぞれの受付順とする。縦書き原稿においては、原稿受付の遅いものから若い通し頁を付する。
 - 五 投稿者校正は2回とし、速やかに校正を行うものとする。遅延する時は編集委員会の責任において処理する。
 - 六 最終校正は、編集委員が行う。
- 第7 別刷りについては、費用（時価）を、当人の研究費（校費）等から負担するものとする。
- 第8 紀要には、論文の他、編集委員会が必要とするものを掲載することができる。
- 第9 紀要に関する庶務は、西千葉地区事務部人社系総務課が担当する。
- 2 「紀要」投稿原稿様式マニュアル等、紀要の様式に関する詳細は、西千葉地区事務部人社系総務課に用意する。
- 第10 紀要に掲載された論文の著作権は著作者に属するが、各著作者は、本紀要の電子化・公開に必要な限度でその権利が編集委員会によって行使されることを承認するものとする。
- 第11 本編集・発行要領の改訂は、千葉大学教育学部、図書・紀要委員会の議を経る。

附 則

1. 本要領は、平成16年4月1日から実施する。
2. 第4条第2号に定める研究費等により負担できるものは、次の場合とする。
 - 一 頁を超過する場合。
 - 二 カラー印刷をする場合。
 - 三 2編以上投稿した場合。
3. 編集委員会の委員は、図書・紀要委員会の紀要担当委員をもって充てる。
4. 編集委員会の委員長は、図書・紀要委員長をもって充てる。

附 則

- この要領は、令和元年11月7日から実施する。
- この要領は、令和3年8月1日から実施する。
- この要領は、令和4年8月1日から実施する。

「千葉大学教育学部研究紀要」編集・発行要領 第4条第2号に定める投稿者の経費負担について

1. 投稿者一人について刷り上がり10頁を超過する場合は、超過した1頁につき、4,000円を当人の研究費（校費）等から負担するものとする。
2. カラー印刷によって増加した費用（時価）を、当人の研究費（校費）等から負担するものとする。
3. 投稿者一人について2編以上を投稿する場合は、2編目から1編につき、20,000円を当人の研究費（校費）等から負担するものとする。
なお、この場合も上記1. は、それぞれの原稿について適用されるものとする。
4. 「千葉大学教育学部研究紀要」投稿細則 1-2 による投稿申込書において、投稿者、執筆者を明記する。
5. この要領は平成24年12月1日から施行する。

目次

研究紀要 千葉大学教育学部

令和5年

第71巻

I. 教育科学系

●発展的課題に対する読み物とワークシートのニーズと評価……山下 修一・野村裕美子・西山 宜孝・保刈 栄紀 及川 美幸	1
●科学的リテラシーを育む「千葉大学×墨田区」プロジェクト……山下 修一・保刈 栄紀・古市 綾乃 —小学校5年「振り子の動き」の支援例—	11
●学校心理学史構築の試み(1)……大芦 治 —学校心理学は教育心理学とどのように棲み分けていたか— 1960年代後半の状況	21
●知的障害児と家族のライフステージによる支援ニーズに関する —考察—……成田 実胡・石田 祥代	27
●中学1年生の英作文に見る誤りからの一考察……物井 尚子・中井 康平・久埜 百合 ベバリー・ホーン	39
●保護観察におけるアセスメントツールの評定者間信頼性の検証……羽間 京子・勝田 聡	47
●中学校家庭科保育学習における乳幼児来校型のふれ合い体験の 試み……シェイファー実緒・中山 節子・安藤 藍	53
●小学校における学級担任の職務分析……鈴木 隆司	61
●養護教諭養成教育における放射線教育プログラムの試行的実践……三森 寧子	71
●大学スポーツ科目において英語を用いた実技を行うことに 対する学生の意識について……下永田修二・谷藤 千香・岩井 幸博・杉山 英人 佐野 智樹・小泉 岳央	79
●日本の音楽をアクティブに学ぶ授業プランの提案と検証……本多佐保美 —雅楽《越天楽》を教材とする「音楽づくり」の授業実践事例—	91
●Comparative Study of English Learning Using Virtual Reality and a Smartphone Application ……KAWASUMI Serena・ISHII Yutaka	99
●特別支援教育におけるICTの活用に関する研究動向……木下 武治・任 龍在・石田 祥代 —知的障害と発達障害に着目して—	107
●小学校国語授業向け類義語表示システムの開発と評価……藤川 大祐・大木 圭・小笠 晃司・安部 朋世 高木 啓・小山 義徳	117
●教育における身体の読み解きの技法について……杉山 英人	127
●大豆をテーマにしたオンラインでの高校生国際ワークショップ によるSDGsへのアプローチ ……辻 耕治・建元 喜寿	137
●1人1台の情報端末を活用した授業に関する研究の動向……八木澤史子・安里 基子・遠藤みなみ ～2018年以降を対象に～ 大久保紀一郎・堀田 龍也	145
●スポーツメンタルトレーニングと保健体育授業との関連に ついて……西野 明	151
●理科教員・養護教諭志望学生を対象とした合同ロールプレイ 演習教材の開発と実践（Ⅰ）～開発報告～……森重 比奈・野村 純・土田 雄一・加藤 徹也	155
●理科教員・養護教諭志望学生を対象とした合同ロールプレイ 演習教材の開発と実践（Ⅱ）～実践報告～……森重 比奈・野村 純・土田 雄一・加藤 徹也	163
●広島県公立中学校における技術科専任教員の他校「兼務」の 実態……佐藤 守・馮 晨・木下 龍	171
●幼児の選択的信頼における「笑顔」の効果……高橋 実里・中道 圭人	177
●幼児における他者の「確率的な行動」と「属性」に基づく 行動予測……林 冬実・中道 圭人	185

●コロナ禍における家庭科調理実習の状況と課題4校の事例分析 より	中山 節子・米田 千恵・露久保美夏・藤本 朱子 笠置賀奈美・豊川ますみ・田村 真理・海老原恭子 犬塚 晶子・庄司 佳子・萬崎 保子	191
●What Does Data-Driven Learning (DDL) Bring Out in Grammar Learning?	NISHIGAKI Chikako・KAKIBA Atsuko	197
●言葉の規則に対する気づきを促す中学校国語授業の実践とその 成果	安部 朋世・橋本 修・西垣知佳子・田中 佑 永田 里美・牧野 太輝	209
●民俗学の研究成果を取り入れた小学校歴史単元の開発研究 —人々は妖怪をどう捉えてきたのか—	戸田 善治・小関悠一郎・鏑木 康平・大川 遼馬 土屋 雅・遠藤 学・遠藤 友博・井原三勇士 河村 将・小倉 智浩・石橋 賢	217
●年長兄の空間的・幾何学的思考の向上に関する一考察 —かたちパズル・プログラムへの取り組み方を分析して—	松尾 七重・花岡 直毅	233
●知的障害特別支援学校における国際理解教育の充実に向けた試み —韓国の言語と文化に着目して—	任 龍在・申 秀玖・高野 美月・佐久間智大 細川かおり	243
●小学校外国語科指導者用デジタル教科書を活用した授業実践	佐藤 裕子・龍 美来・小川 一美・染谷 藤重 本田 勝久	251
●肢体不自由通級指導を受けている児童生徒の継続的な指導・支 援に関する研究 —通級指導の運営体制面との関連を中心に—	新田 賢司・真鍋 健	259
●Relationship Between Science Career Awareness and Individual Interest in School Science in Japanese Junior High School Students	SAGEME Marvin・OSHIMA Ryugo	269

Ⅱ. 人文・社会科学系

●サブサハラ・アフリカにおけるイモ・バナナの生産拡大とイモ 増産をめぐる謎 —食糧生産の脱穀物化は生じているのか?—	妹尾 裕彦	283
●心理的安全性と生徒の問いの生成の関係の検討	小山 義徳・桐島 俊・道田 泰司・田邊 純	301
●「被征服者」／「被征服民族」たちの声 —岡本彌太・未刊詩集『山河』の可能性	佐藤 元紀	378
●歌ことば「あまごろも」考 —浮舟の歌一首—	鈴木 宏子	386

Ⅲ. 自然科学系

●メカジキ生肉および加熱肉のpH調整による性状変化	米田 千恵	311
●明治・大正時代の型友禅を中心とした古裂の収集・調査・分析	谷田貝麻美子・片渕奈美香	317
●リニアモーターカー教材の検討	飯塚 正明・近藤 恭平	331
●摺漆の塗布回数が木材の吸湿性および鉛筆引っかかり硬さに及ぼ す影響	山本 生成・田邊 純	337

Ⅳ. 芸術系

●表現運動の「イメージカルタ」における文字の描き方に関する 検討 —通常文字・オノマトペ強調文字の効果を比較して—	七澤 朱音・永末 大輔	343
●日本の中学校における文化遺産としての伝統工芸の指導	佐藤 真帆	349
●幼小接続における造形教育環境としての砂場	檜 英子・井上 郁・篠塚 真希・小橋 暁子	357

Contents

Bulletin
of The Faculty of Education,
Chiba University

2023

vol. **71**

I . Pedagogy

●Needs and Evaluation of Reading Materials and Worksheets for Advanced Tasks	YAMASHITA Shuichi NOMURA Yumiko NISHIYAMA Noriyuki HOKARI Hideki OIKAWA Miyuki	1
●“Chiba University x Sumida Ward” Project to Nurture Scientific Literacy	YAMASHITA Shuichi HOKARI Hideki FURUICHI Ayano	11
●An Attempt to Construct Two Histories of Psychology: the History of School Psychology and the History of Educational Psychology (1);	OASHI Osamu	21
●A Study of the Support Needs of Children with Intellectual Disabilities and Their Families According to Their Life Stage	NARITA Miko ISHIDA Sachiyo	27
●A Study Analyzing Errors in the English Composition by First-Year Junior High School Students	MONOI Naoko NAKAI Kohei KUNO Yuri HORNE, Beverley	39
●Inter-Rater Reliability Examination of Assessment Tools for Individuals Under Supervision in Japan	HAZAMA Kyoko KATSUTA Satoshi	47
●A Study of School based Interactive Learning Experience with Young Children in a Junior High School Home Economics Childcare Learning	SCHAEFER Mio NAKAYAMA Setsuko ANDO Ai	53
●Job Analysis of Class Teachers in Elementary Schools	SUZUKI Takashi	61
●Trial Practice of Radiation Education Pedagogy in <i>Yogo</i> Teacher Education Course	MITSUMORI Yasuko	71
●Student’s Awareness of University Sports Class in English	SHIMONAGATA Shuji TANIFUJI Chika IWAI Yukihiro SUGIYAMA Hideto SANO Tomoki KOIZUMI Takehisa	79
●Proposal and Verification of a Lesson Plan for Active Learning of Japanese Music:	HONDA Sahomi	91
A Practical Case Study of a Music Making Classroom Lesson Using <i>Gagaku</i> “ <i>Etenraku</i> ” as a Teaching Material.		
●Comparative Study of English Learning Using Virtual Reality and a Smartphone Application	KAWASUMI Serena ISHII Yutaka	99
●A Research Trend on the Use of ICT in Special Needs Education	KINOSHITA Takeharu LIM Yongjae ISHIDA Sachiyo	107
—Focusing on Intellectual and Developmental Disabilities—		
●Development and Evaluation of Synonyms Display System for Elementary School Japanese Language Classes	FUJIKAWA Daisuke OOKI Kiyoshi OGASA Koji ABE Tomoyo TAKAKI Akira OYAMA Yoshinori	117
●On Technique of Understanding of Body in Education	SUGIYAMA Hideto	127

●Proposal of an International SDGs Workshop for High School Students on the Topic of Soybean	TSUJI Koji TATEMOTO Yoshikazu	137
●Review of Research on the Practice on One-to-One Computing ~Targeting 2018 and beyond~	YAGISAWA Fumiko ASATO Motoko ENDO Minami OKUBO Kiichiro HORITA Tatsuya	145
●The Research on Association between Sports Mental Training and Health and Physical Education Class	NISHINO Akira	151
●Development and Practice of Cooperative Role-play Exercise for Pre-service Science Teachers and School Nurses (I) ~Development Details~	MORISHIGE Hina NOMURA Jun TSUCHIDA Yuichi KATO Tetsuya	155
●Development and Practice of Cooperative Role-play Exercise for Pre-service Science Teachers and School Nurses (II) ~Practice Details~	MORISHIGE Hina NOMURA Jun TSUCHIDA Yuichi KATO Tetsuya	163
●Situation of Full-time Technology Teacher Concurrently Served at Other Public Junior High Schools in Hiroshima Prefecture, Japan	SATO Mamoru FENG Chen KINOSHITA Riew	171
●Effects of the smile on selective trust in young children.	TAKAHASHI Minori NAKAMICHI Keito	177
●Young children's prediction of other's behavior based on probabilistic and categorical information.	HAYASHI Fuyumi NAKAMICHI Keito	185
●A Case Analysis of Four Schools Good Practices of Home Economics Cooking Lesson during the COVID-19	NAKAYAMA Setsuko YONEDA Chie TSUYUKUBO Mika FUJIMOTO Ayako KASAGI Kanami TOYOKAWA Masumi TAMURA Mari EBIHARA Kyoko INUZUKA Syouko SYOJI Yoshiko MANZAKI Yasuko	191
●What Does Data-Driven Learning (DDL) Bring Out in Grammar Learning?	NISHIGAKI Chikako KAKIBA Atsuko	197
●Effects of Japanese Language Classes at Junior High School on Promoting Awareness of the Language Rules of Japanese	ABE Tomoyo HASHIMOTO Osamu NISHIGAKI Chikako TANAKA Yu NAGATA Satomi MAKINO Taiki	209
●Unit Development of Elementary Historical Education Based on the Folklore Research: How do People Perceive "YOKAI"	TODA Yoshiharu KOSEKI Yuichiro KABURAGI Kohei OHKAWA Ryoma TSUCHIYA Miyabi ENDO Manabu ENDO Tomohiro IHARA Myuji KOURA Sho OGURA Tomohiro ISHIBASHI Kenji	217
●A study on the improvement of spatial and geometric thinking of senior children in preschool: Observation of the children's participation in the <i>katachi</i> puzzle program	MATSUO Nanae HANAOKA Naoki	233

●An Attempt to Enhance the Education for International Understanding in Special School for Children with Intellectual Disability: Focusing on Korean Language and Culture	LIM Yongjae SHIN Sumin TAKANO Mitsuki SAKUMA Tomohiro HOSOKAWA Kaori	243
●Classroom Practices of the Teacher-approved Digital Textbooks for English Education in Primary Schools	SATO Yuko RYO Miku OGAWA Kazumi SOMEYA Fujishige HONDA Katsuhisa	251
●Research on Continuous Education and Support for Students with Physical Disabilities in the Resource Rooms —Focusing on the Relationship with the Management System of the Resource Rooms—	NITTA Kenji MANABE Ken	259
●Relationship Between Science Career Awareness and Individual Interest in School Science in Japanese Junior High School Students	SAGEME Marvin OSHIMA Ryugo	269

II. Humanities and Social Sciences

●The Expansion of RTB Production and Conundrum Surrounding Increased Root and Tuber Production in Sub-Saharan Africa: Does the De-Grainization of Staple Food Production Occur?	SEO Yasuhiko	283
●Examining the relationship between psychological safety and pupils' generation of questions	OYAMA Yoshinori KIRISHIMA Shun MICHITA Yasushi TANABE Jun	301
●The Voices of “Conquered”: The Possibility of <i>Sanga</i> , Unpublished Poetic Works of Yata Okamoto	SATO Motoki	378
●On Waka-Word Ama-goromo	SUZUKI Hiroko	386

III. Natural Sciences

●Changes in Properties of Raw and Cooked Swordfish Meat due to pH Adjustment	YONEDA Chie	311
●Collection, Investigation, and Analysis of Stencil-dyed Kimono Fabrics Dated to the Meiji and Taisho Periods	YATAGAI Mamiko KATAFUCHI Namika	317
●Development of Teaching Materials to Magnetically Levitated Train	Iizuka Masaaki Kondo Kyouhei	331
●Effect of the Number of Times of Finishes on Moisture Absorption and Pencil Hardness of Wood in <i>Suri-Urushi</i> , a Japanese Lacquer Finishing	YAMAMOTO Kinari TANABE Jun	337

IV. Fine Arts

●An Examination of How to Draw Characters in “Image Carta” in an Expressive units —A Comparison of the Effects of Normal and Onomatopoeia-Enhanced Characters—	NANASAWA Akane NAGASUE Daisuke	343
●Teaching Traditional Crafts as Cultural Heritage in Japanese Lower Secondary Schools	SATO Maho	349
●Sandbox as an Art Education Environment in the Connection between Kindergarten and Elementary School	MAKI Hideko INOUE Kaoru SHINOTSUKA Maki KOBASHI Satoko	357

2022年度外部資金一覧（教育）

教室名	代表者氏名	研究種目	委託者	研究課題名（事業名）
教育心理学	岩田 美保	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児・児童の感情言及がもつ関係調整機能に着目した他者理解の発達の検討
	大芦 治	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	心理学の一領域としての学校心理学の起源と発展—教育心理学との差別化をめぐる—
	小山 義徳	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	小中学校における「児童生徒の疑問に基づいた授業」の開発
	西口 雄基	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	ネガティブな身体イメージが抑うつに及ぼす影響
教育学	市川 秀之	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	コモンスに根ざした民主主義教育論の構築
	高木 啓	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	教員養成における授業実践コンピテンシーと教育学コンテンツの結合
	丹間 康仁	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	学校統廃合と社会教育の共創プロセスに基づく持続可能な地域学校協働システムの構築
		若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	学習を基盤とした学校統廃合プロセスの検証による地域教育空間持続モデルの構築
	貞廣 齋子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	教育財政における公私分担・配分構造の再構築と財政原則に関する研究
		基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	新しい教員定数配置システムの政策選択シミュレーションと政策選択構造に関する研究
	羽間 京子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	保護観察における新たなアセスメントツールの有用性の検証
	八木澤史子	受託研究	(公財)教科書研究センター	「新しい」教科書の使い方」の活用に向けた提案に関する調査研究
研究活動 スタート支援		独立行政法人 日本学術振興会	1人1台の情報端末を活用した授業における学習指導案の様式の再定義	
国語科	安部 朋世	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	言語分析力を育成し国語文法力向上に寄与する国語データ駆動型学習教材開発の研究
		基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	メタ言語能力向上に資する小中学校用国語教育コーパスとデータ駆動型教材開発の研究
	佐藤 元紀	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	十五年戦争期の公器「日本詩壇」に見られる地方詩人の文学的営為に関する調査及び研究
	寺井 正憲	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	社会意識の深化を図り異質を編集するコミュニケーション能力の育成に関する研究
	森田 真吾	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	本を介して新たな言語環境を作り出すことを意識した国語科授業開発に関する研究
書写書道	樋口 咲子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	小学校国語科書写における硬筆・毛筆動画教材および授業モデル解説動画の作成
社会科	梅田 克樹	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	酪農セクターの災害レジリエンス形成における社会関係資本の役割
	金 慧	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	カントにおける非理想理論としての国際法論—暫定的領有権の構想
	小関悠一郎	基盤研究 (B)	独立行政法人 日本学術振興会	近世・近代日本における「富国」論の政治的・社会的機能に関する研究
	阪上 弘彬	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	ESDと教科固有のコンピテンシーを一体的に育成する中等社会科カリキュラム開発研究

教室名	代表者氏名	研究種目	委託者	研究課題名(事業名)	
社会科	澤田 典子	研究成果 公開促進費 (学術図書)	独立行政法人 日本学術振興会	古代マケドニア王国史研究——フィリッポス二世のギリシア征服	
	妹尾 裕彦	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	サブサハラ・アフリカにおける食体系の構造変動：主食の供給と消費に関する定量的解明	
	竹内 裕一	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	地方圏における「地域再生」を担う人材育成を目指した地域学習のあり方に関する研究	
	戸田 善治	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	プロフェッション倫理と市民倫理の相剋を活用した倫理教育のグローバル教材開発研究	
数学科	白川 健	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	フィードバック型形態変動を伴う自由境界の安定構造に対する予測・制御の研究	
	辻山 洋介	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	問題設定における議論の蓋然性と多様性に着目した証明活動の学習過程の構築と検証	
	前田 瞬	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	リッチソリトン、山辺ソリトン及び極小部分多様体の一般化の研究	
	松尾 七重	基盤研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	教科総合の視点を取り入れた就学前数学教育プログラムの開発	
		挑戦的研究 (萌芽)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児期の「積み木遊び」と「リズム遊び」がパターン認識能力育成に及ぼす影響の解明	
理科	泉 賢太郎	助成金	公益財団法人 武田科学振興財団	中学校理科第2分野地学領域における動的デジタル教材の開発と実践～生徒個人の端末での使用を目指して～	
		助成金	公益財団法人 クリタ水・環境科学 振興財団	堆積物の物理的・化学的な特性が堆積物中の環境DNA濃度に及ぼす影響の多角的評価	
	加藤 徹也	受託研究	墨田区 2022	リテラシー育成のための分析、授業開発及び検証	
		基盤研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	日本型理科教育の海外展開を目指した現地教育若手人材の研修と物理系教材の開発	
	笹川 幸治	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	新規なモデル系の導入による学習行動研究の新展開	
		若手研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	幾何学的形態測定法による昆虫口器の多様化機構の解明：オサムシ科幼虫をモデル系に	
	林 英子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	教育用マイコンmicro:bitを用いた理科実験教材の開発	
	山下 修一	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	コア知識とOPPAの知見を統合して発展的課題に対応するワークシートの開発と評価	
	山田 哲弘	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	基材への吸着と二次元分子配列を強相関させた新規界面活性剤型防錆剤の創出	
	大和 政秀	挑戦的研究 (萌芽)	独立行政法人 日本学術振興会	アーバスキュラー菌根菌胞子果の同定分類と有性生殖の探索	
		共同研究	九州電力株式会社	オオバノトンボソウ保全に関する研究	
	英語科	石井 雄隆	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	混合研究法を用いた日本人英語学習者のライティングプロセスの解明
		西垣知佳子	基盤研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	小中高大の英語学習者のためのデータ駆動型英文法学習サイトの開発
星野 由子		基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	小中連携を図るための中学入門期における診断用英語語彙テストの開発	
物井 尚子		基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	日本人児童のための新L2 WTCモデル構築と英語運用能力尺度の開発	

2022年度外部資金一覧（教育）

教室名	代表者氏名	研究種目	委託者	研究課題名（事業名）
美術科	小橋 暁子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	見方・考え方を視点に幼小の接続をふまえた造形教育教員養成カリキュラムの編成
	佐藤 真帆	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	伝統工芸を通じた文化的資質能力を育成する美術教師教育プログラムの開発
		若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	伝統的なものづくりと新しい文化的アイデンティティに関する研究
	神野 真吾	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	美術館における社会的課題を踏まえた子ども対象のアート・プロジェクトのモデル化
	宮崎 甲	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	鎌倉期における金銅仏鑄造法の実証研究—那古寺金銅千手観音菩薩像から探る—
保健科	小宮山伴与志	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	持続時間の異なる激運動とそのトレーニングに対する中枢直流電気刺激の効果
	下永田修二	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	国内外で行う英語教育と体育を融合した体育・スポーツ実践プログラムの開発
	七澤 朱音	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	実践的知識を育成する体育科教育法の構築～講義内容と連携した事例映像の製作と活用～
技術科	木下 龍	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	現代米国の新自由主義・市場原理主義化の中での技術学教育の教育課程開発実践の行方
	田邊 純	助成金	公益信託エスベック 環境研究・技術基金	荒廃農地削減に資するクロモジの粗放栽培ソーラーシェアリング技術の開発
		若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	樹種ごとの材質特性の多様性を活かしたSTEAM教材開発による木材加工授業の新展開
	辻 耕治	研究成果公開促進 費（ひらめきとき めきサイエンス）	独立行政法人 日本学術振興会	「遺伝子も資源である」ことを身近な作物の多様性から学ぼう
基盤研究 (C)		独立行政法人 日本学術振興会	東南および南アジアと連携したSDGsへの農業・環境教育からの有効なアプローチ方法	
家庭科	安藤 藍	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	家族多様化と「子どもの権利」としての〈家庭〉—社会的養護の国際比較分析—
	中山 節子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	高等学校家庭科における評価者育成の視点に立った評価開発に関する研究
	米田 千恵	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	魚介肉タンパク質の変性制御を活用した新規調理法の構築
特別支援 教 育	石田 祥代	基盤研究 (B)	独立行政法人 日本学術振興会	後期中等教育におけるインクルーシブ教育の展望とその方略の提言
		挑戦的研究 (萌芽)	独立行政法人 日本学術振興会	インクルーシブ教育理論から優秀児の教育的支援を展望する萌芽的研究
	細川かおり	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	インクルーシブ教育を推進するグローバル特別支援学校教師の研修開発と教員養成
	真鍋 健	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	保育現場における大人しい障害幼児の姿と保育者による支援の解明
		若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	幼児期の経験を無駄にしない：「深い学び」の継続支援システムの開発
	宮寺 千恵	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	不注意ならびに多動性傾向の高さが学業成績や自尊感情に及ぼす影響に関する検討
幼児教育	駒 久美子	基盤研究 (C)	独立行政法人 日本学術振興会	保育者養成課程における即興表現を活かしたインクルーシブな表現教育プログラムの開発
	砂上 史子	受託事業	文部科学省 初等中等教育局 幼児教育課	幼児教育における人材確保・キャリアアップ支援事業

教室名	代表者氏名	研究種目	委託者	研究課題名(事業名)
幼児教育	砂上 史子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	発達リスク予防・低減のための保育者研修及び幼児対象心理教育の開発
	崔 美美	助成金	公益財団法人 発達科学研究 教育センター	日韓における保育者の保育実践に関する研究—子どもの人権を中心に—
	中道 圭人	基盤研究(B)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児期の創造的思考に及ぼすふり遊び・社会情動的能力の影響に関する学際的実証研究
		基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児期のメンタル・タイムトラベルの発達：反事実的思考と未来思考
	淀川 裕美	若手研究	独立行政法人 日本学術振興会	0～2歳児クラスの保育者と子どもの食事の実践・規範・文化の形成に関する縦断研究
養護教諭	高橋 浩之	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	教員養成分野におけるジェネリック・スキル育成のための教育的介入の検討
	野村 純	研究成果公開促進 費(ひらめきとき めきサイエンス)	独立行政法人 日本学術振興会	傷を治す体の仕組みを免疫細胞から考えてみよう
		挑戦的研究 (萌芽)	独立行政法人 日本学術振興会	ICTでのSociety5.0対応チーム学校の実効化：担任と養護教諭の「溝」解決
	三森 寧子	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	幼児教育におけるソーシャルキャピタルを核とした健康発達資産の醸成に関する研究
留 学 生 育 教 育	吉田 雅巳	挑戦的研究 (開拓)	独立行政法人 日本学術振興会	国立の大規模オンライン講座による市民の公共資料活用支援の可能性
教員養成 開 発 セ ン タ ー	磯邊 聡	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	適応上の問題を抱える生徒に対する援助的な視点に基づいた『教育臨床的進路指導』
	大野 英彦	受託事業	独立行政法人 教職員支援機構	NITS・教職大学院等コラボ研修プログラム支援事業 ミドルリーダー養成研修
	笠井 孝久	基盤研究(C)	独立行政法人 日本学術振興会	教員を志望する高校生へのキャリア支援：学部教員養成以前の教職カリキュラムを考える
	重 歩美	研究活動 スタート支援	独立行政法人 日本学術振興会	高等学校在学時に出産した生徒への支援のあり方についての研究
教育学部 附属小学校	中谷 佳子	受託研究	文部科学省	実社会との接点を重視した課題解決型学習プログラムに係る実践研究

「千葉大学教育学部研究紀要」投稿細則

1 「論文」原稿の申し込み及び投稿

千葉大学教育学部研究紀要（以下「紀要」という）の投稿期限及び提出先は、次のとおりとする。

- 1-1 投稿希望者は、教育学部研究紀要編集委員会（以下「編集委員会」という。）が定めた期日までに、投稿原稿様式マニュアルに従い作成した原稿を、投稿申込書、投稿者チェックシート等とともに提出する。
- 1-2 提出先は、編集委員会委員長（事務担当：西千葉地区事務部人社系総務課）とする。
- 1-3 論文の著作権は著作者に属するが、各著作者は、本紀要の電子化・公開に必要な限度でその権利が編集委員会によって行使されることを承認するものとする。
- 1-4 投稿原稿について、編集委員会が修正を求める場合がある。

2 「論文」原稿作成について

2-1 原稿は原則として日本語あるいは英語によって作成する。日本語と英語以外の言語による原稿の作成がどうしても必要な場合は、和文原稿あるいは英文原稿のいずれかに準じた書式とする。

原稿の種類に関わらず、マージンは、上下左右ともに2.5cm程度とする。ただし、原稿用紙を使用する場合は、原稿用紙のマージンをもって上記のマージンを満たしているものとする。

原稿は全て、なみ字体（英語ではローマン体）とし、太字体（ボールド体）や斜字体（イタリック体）等が必要な箇所は、ハードコピーの原稿に校正記号で指示することが望ましい。なお、手書き原稿においては、これに準じた対応をする。

和文論文の場合、アルファベットを使用している部分を除き、句読点は、横書きは「、」と「。」、縦書きは「、」と「。」を使用する。

2-2 原則として横書きで作成すること。ただし、特に必要であるときは縦書きで作成することを認める。

2-2-1 横書き原稿の場合

和文：縦置きA4用紙に、1行40字、1頁40行の1段組で原稿を作成する。

英文等：縦置きA4用紙に、1行40字、1頁40行の1段組で原稿を作成する。

和文、英文原稿に関わらず、表紙（表題、著者名、所属、キーワード、要旨及び表題・著者名・所属に関する脚注）は、本文と同じく1段組みで作成する。

2-2-2 縦書き原稿の場合

和文：横置きA4用紙に、1行40字、1頁40行の1段組で原稿を作成する。

表紙（表題、著者名、所属、キーワード、要旨及び表題・著者名・所属に関する脚注）は、本文と同じく1段組みで作成する。

和文要旨及び英文要旨はそれぞれ、表紙及び本文とは別紙として用意する必要はない。

2-3 引用文献の引用方式及び表記方式は特に定めないが、同一論文の中では、同一の引用及び表記方式を用いる。

2-4 図及び表の作成方法

2-4-1 図・表は、1枚ずつ別紙に用意し、それぞれの図・表の裏面に、著者名、筆頭著者の所属名と各図・表番号を明記する。また、本文中には図・表の挿入箇所を明示する。ただし、本文中に図・表を挿入した場合は、著者名等の情報を明記する必要はない。

図・表は希望する縮尺サイズを明示する。なお、編集の都合上、図表の縮尺サイズの最終決定権は編集委員会に帰属するものとする。編集上の都合で、著者が希望した以外の縮尺サイズで、図表が掲載された場合、本件に関して異論のある著者は、初稿で示された段階において、編集委員会に対して申し出を行い、同委員会と協議して最終縮尺サイズを決定するものとする。

2-5 著者が、作成原稿で使用した言語を母語としない場合、著者の責任においてネイティブスピーカーによる原稿の言語チェックを行うことが望ましい。

2-6 著作権に関わる図・表等を引用する場合は、投稿者の責任において著作権保持者から同意を得る。

2-7 その他、原稿の体裁に関わる詳細は、別に定める「千葉大学教育学部研究紀要」投稿原稿様式マニュアル（以下「マニュアル」という。）に従う。

3 この細則及びマニュアルの改定は、教育学部図書・紀要委員会の議を経るものとする。

附 則

この細則は、令和元年11月7日から実施する。

この細則は、令和3年8月1日から実施する。

「千葉大学教育学部研究紀要」投稿原稿様式マニュアル

論文題名：和文論文・英文論文にかかわらず，和文タイトルと英文タイトルを必ず用意する。

著者氏名：和文論文・英文論文にかかわらず，日本語と英語を必ず用意する。

英語での表記は略さず，Family Name, Middle Name (お持ちの方のみ), Given Nameの順に記述すること。

著者所属：和文論文・英文論文にかかわらず，日本語と英語を必ず用意する。

教育学部の専任教員及び本学部附属学校教諭であっても，所属を明記する。学生も本人の所属機関，学部名を記述する。なお，学生は，所属末尾に博士課程，修士課程，学部生，専攻生，研究生の別を明記する（社会人の学生は，各自の職場名あるいは学生としての身分のいずれを記述してもよい）。

在学中の研究に関わる論文にあっては，卒業（修了）後であってもその研究を行った時の所属のみを記述してもよい。

所属は必ず主となる所属名を記述（どうしても必要であれば，括弧書きで，その他の所属名を添えてもよい）する。記述にあたっては，学部名あるいはこれに相当するランクの詳細まで記述する。なお，学部は，Departmentではなく，Facultyとして表記する。

連絡著者（Corresponding Author）の明示：著者が二名以上の場合には，必ず連絡著者名を明示すること。連絡先の明示は義務づけがないが，できる限り，メールアドレス等を記述する。

要旨：和文論文は必ず和文要旨を，英文論文は必ず英文要旨と和文要旨を準備する。両要旨ともに段落は設けないこと。

なお，和文論文に関しても，可能な限り，英文要旨を用意する。

英文原稿の和文要旨及び和文原稿の英文要旨は下記のような形式で提出する。

和文要旨は，本文400字以内（句読点は字数に含め，スペース部分は字数に含めない），英文要旨は，本文300words以内（カンマ，ピリオド等は字数に含め，スペース部分は字数に含めない）とする。いずれの場合も，字数，用語数は厳守する。

キーワード：和文論文，英文論文ともに，5語以内のキーワードを，必ず日本語及び英語で準備すること。記述順序は，重要なワード順とする。

欄外見出し：和文原稿では和文40字以内，英文原稿では英文50字以内の欄外見出しを決定し，投稿者の責任において原稿投稿時に提出する。

和文論文作成マニュアル

和文論文は，次の記入例に従い，1頁目に表紙，2頁目に本文，最終頁に英文要旨等の順に作成すること。

注：英文要旨を作成しない場合も，英文の論文タイトル・氏名・所属・キーワードを明示する。

記入例 [和文の場合]

[1頁目] 表紙

日本語でのタイトル

千葉太郎¹⁾・教育 好²⁾・紀要進造¹⁾・教育修子³⁾

1) 千葉大学・教育学部

2) 世界教育研究所・環境科学部門

3) 千葉大学大学院・教育学研究科・修士課程

参考：博士課程学生は東京学芸大学連合大学院教育学研究科・博士課程という様式で記述する。
学部生の場合は千葉大学教育学部・学部生という様式で記述する。
専攻生の場合は千葉大学教育学部・専攻生という様式で記述する。
研究生の場合は千葉大学教育学部・研究生という様式で記述する。

要旨

キーワード：宇宙・教育・日本・学部・大学

*連絡先著者：E-メールのアドレス等を記述

[2 頁目] 本文（和文）

序

- 1 目的
- 2 方法
- 3 結果
- 4 考察

謝辞

引用文献

注 本文の章立てについては、必ずしも通し番号をつける必要はない。

[最終頁] 英文要旨等

英語でのタイトル

CHIBA Taro¹⁾, KYOIKU Ko²⁾, KIYO R. Shinzo¹⁾ and KYOUIKU Shuko³⁾

1) Faculty of Education, Chiba University, Japan

2) Division of Environmental Science, The Institute of World Education, USA

3) Faculty of Education, Chiba University, Japan; Undergraduate Student

Abstract 本文（可能な限り用意する。）

Key Words: Universe, Education, Japan, Faculty, University

* Corresponding author : E-メールアドレス等を記述

注 1 : 上記例示の氏名中の「R.」はミドルネーム。

注 2 : 英文での氏名の表記は、姓を最初に示し、名を後に表記する。また、姓はすべて大文字で表記する。

英文論文作成マニュアル

英文論文は、次の記入例に従い、1 頁目に表紙、2 頁目に本文、最終頁に和文要旨等の順に作成すること。

記入例 [英文の場合]

[1 頁目] 表紙

英語でのタイトル

CHIBA Taro¹⁾, KYOIKU Ko²⁾, KIYO R. Shinzo¹⁾ and KYOUIKU Shuko³⁾

- 1) Faculty of Education, Chiba University, Japan
- 2) Division of Environmental Science, The Institute of World Education, USA
- 3) Faculty of Education, Chiba University, Japan; Undergraduate Student

Abstract 本文

Key Words: Universe, Education, Japan, Faculty, University

* Corresponding author : E-メールアドレス等を記述

[2 頁目] 本文 (英文)

Introduction

- 1 Propose
- 2 Method
- 3 Result
- 4 Implication

Acknowledgements

References

注 本文の章立てについては、必ずしも通し番号をつける必要はない。

[最終頁] 和文要旨等

日本語でのタイトル

千葉太郎¹⁾・教育 好²⁾ *・紀要進造¹⁾・教育修子³⁾

- 1) 千葉大学・教育学部
- 2) 世界教育研究所・環境科学部門
- 3) 千葉大学大学院・教育学研究科・修士課程

要旨

キーワード：宇宙・教育・日本・学部・大学

*連絡先著者：E-メールアドレス等を記述

注1：上記例示の氏名中の「R.」はミドルネーム。

注2：英文での氏名の表記は、姓を最初に示し、名を後に表記する。また、姓はすべて大文字で表記する。

CD-R・USBメモリ等の提出に関する依頼事項

原稿は、ハードコピー（1部）とCD-R・USBメモリ等（以下「CD-R等」という。）の両方の方式で提出する。

イタリック体等の字体に関してはハードコピーに、赤字で字体等の指示を明記することが望ましいが、必ずしも行う必要はない。通常汎用されているパソコンソフトであれば、いずれのソフトを使用して原稿を作成してもよい。ただし、ワープロ専用機を使用する場合は、原稿作成者の責任においてパソコン対応ソフトに変換することを条件とする。

図・表に関しても可能な限り、版下となりうるデータをCD-R等に保存し、提出することが望ましい。

ハードコピーで提出する図・表の裏には、1枚ずつ図・表の番号、所属・氏名等を記入する。

提出CD-Rには、使用OS名、ソフト名を明記する。（USBメモリ等の場合は、同様の内容についてメモを添付すること。）

千葉大学教育学部研究紀要 第71卷

2023（令和5）年3月1日発行

編集兼 〒263-8522
発行人 千葉市稲毛区弥生町1番33号
千葉大学教育学部

印刷所 〒113-0001
東京都文京区白山1丁目13番7号
勝美印刷株式会社
電話 03(3812)5201
